

⑥ 研修意欲を高め、授業の質的改善を図る授業研究のあり方・すすめ方

問 題	改善の方向	改善の具体策	配 慮 事 項
<p>—問題点— 授業の質的改善と授業研究内容の共有化を図る授業研究のすすめ方が不明確なため、研修意欲が高まらない。</p> <p>授業研究内容の共有化を図り、授業の質的改善に結びつく授業研究は、どのような手順・内容ですすめたらよいか。</p>	<p>「事前研究」 <input type="checkbox"/>授業研究の課題を確認し、ねらいを明確にする。</p> <p><input type="checkbox"/>今回の授業研究のねらいと問題点をふまえ、授業仮説を設定する。</p>	<p>①自校の授業研究の課題を確認し、共通理解する。</p> <p>②今回の授業研究のねらい（授業研究テーマ）を明らかにする。</p> <p>③今回の授業研究のねらいにかかわる実態調査をし、問題点と解決・改善点を把握する。</p> <p>④解決・改善策を話しあい、授業仮説を考える。</p> <p>⑤今回の授業研究の単元・教材学年・組・学習指導案の形式を決定する。</p> <p>⑥授業研究教材の分析研究をするとともに本時授業仮説を決定する。</p>	<p>○自校の授業研究の課題と今回の授業研究のねらいを、自校研究主題に照らし、先に作成している年間推進計画に基づいて検討・確認する。ここでは、参加者全員の目的の共有化と共通理解を図ること。したがって全員研究協議会等を通して十分に話し合うよう配慮すること。学校規模によっては、前もって学年部会・現職研修委員会等で原案を審議・作成し、全員研修協議会等に提示する等の配慮も必要であろう。とにかく「目的・目標の共有化」が集団の中での自己啓発には大切なことであるので大事にしたい。</p> <p>○実態調査の内容・方法については、自校の研究組織を生かし、資料・調査係等を中心に、問題点が浮きぼりにされるようなアンケート設問等を工夫する。ここで明らかになった問題点をもとに、その解決・改善策の協議～授業仮説設定へとつながっていく。</p> <p>○話し合いにおいては、自己啓発を促せるよう参加者各自の授業実践からの方策を出し合い、集約しながら本時授業研究の授業仮説を策定していくように配慮する。なお、この段階では、解決・改善の方向だけを話し合い、⑥の教材分析研究後に本時授業仮説を決定する。（本時授業仮説は、したがって今回の授業研究テーマとそれにかかわる問題点、解決改善の方策の検討、教材研究結果からつくられることになる。）</p> <p>○自校の「年間推進計画」においてすでに決定している場合は、再度全員の共通理解を図る視点から、先の計画内容が妥当かどうか、①～④に照らし検討・確認する。</p> <p>○学習指導案の形式については、研究主題・授業研究テーマによって異なり特定できないが、授業仮説の検証内容と評価が学習指導過程に明示できるものに工夫する。</p> <p>○下記の内容について授業者を中心に、学年部会・教科部会・全体研究協議会等で研究しまとめ、決定する。 ・指導（到達）目標を明確にする。 ・指導すべき内容（指導事項）を明確にする。</p>